

訂正箇所：2項①に前線上の低気圧発生の記事を追加。

### 1. 実況上の着目点

① 台風第10号から変わった熱帯低気圧が紀伊半島付近にあって、ゆっくり北上。熱帯低気圧周辺の雨雲や日本のはるか東に中心を持つ太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入し、西～東日本では、大気の状態が非常に不安定となっており、1時間20～40mmの雨量を解析、雷を検知。これまでの大雨により、西～東日本の太平洋側を中心に土砂災害の危険度が高まっている所がある。

② オホーツク海付近には500hPa -21℃以下の寒気を伴った5400m付近の寒冷渦があって、ほぼ停滞。

対応する低気圧がオホーツク海にあって、低気圧からのびる前線がカムチャツカ半島、日本の東を通過して東日本へのびている。また、中国東北区には500hPa -6℃以下の寒気を伴った5700～5820mのトラフがあって、南東進。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の熱帯低気圧は、本州付近を北上し2日朝までには衰弱し、2日夜までには前線上に新たに低気圧が発生する。1項②の前線は、2日は西日本～東北地方付近へのび、3日にかけて本州付近を南下し、4日にかけて伊豆諸島付近に停滞する。低気圧や前線に向かって1項①の高気圧の縁辺から下層暖湿気が流入し、西～北日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。また、東日本太平洋側を中心に、これまでの大雨により土砂災害の危険度が高まっている所があり、少しの雨でも土砂災害の発生するおそれがあることに留意。東日本や東北地方では、2日は土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。西日本や北日本では、2日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧や前線近傍では、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。西～北日本では、3日にかけて強風や高波に注意。

② 1項②の500hPa -6℃以下の寒気を伴ったトラフは、4日にかけて日本付近へと進む。日本付近は、4日は次第に日本海に中心を持つ高気圧に覆われ、晴れる所が多い。西～東日本では、4日にかけて上空寒気と滞留する下層暖湿気、日射による昇温の影響により、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、急な強い雨、局所的には竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：東北地方120、東海100mm。②波浪(明日まで)：東北3m。③高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。